
平成27年 第3回(定例)日出町議会会議録(第3日)

平成27年9月8日(火曜日)

議事日程(第3号)

平成27年9月8日 午前10時00分開議

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

本日の会議に付した事件

開議の宣告

日程第1 一般質問

散会の宣告

出席議員(15名)

1番	岡山 栄蔵君	2番	阿部 真二君
3番	上野 満君	4番	金元 正生君
5番	川西 求一君	6番	岩尾 幸六君
7番	土田 亮治君	8番	池田 淳子君
9番	工藤 健次君	10番	安部 三郎君
11番	森 昭人君	12番	白水 昭義君
13番	佐藤 隆信君	14番	佐藤 二郎君
16番	熊谷 健作君		

欠席議員(なし)

欠 員(1名)

事務局出席職員職氏名

局長	小野裕一郎君	次長	安田加津浩君
----	--------	----	--------

説明のため出席した者の職氏名

町長	工藤 義見君	副町長	今宮 禮二君
教育長	西野 智行君	会計管理者兼会計課長	阿部 孝君
総務課長	村井 栄一君	財政課長	川野 敏治君
政策推進課長	井川 功一君	契約検査室長	佐藤 義人君
税務課長	脇 英訓君	住民課長	佐藤久美子君
福祉対策課長	原田 秀正君	健康増進課長	高倉 伸介君
生活環境課長	佐藤 寛爾君	商工観光課長	河野 晋一君
農林水産課長	岡野 修二君	都市建設課長	村岡 政廣君
上下水道課長	大塚 一路君	農業委員会事務局長	宮本 洋二君
教育委員会教育総務課長	宇都宮敏樹君	教育委員会学校教育課長	恒川 英志君
生涯学習課長	野上 悟君	代表監査委員	阿部 長夫君
監査事務局長	岩尾 修一君	総務課参事	藤本 英示君
財政課長補佐	帯刀 志朗君		

午前10時00分開議

開議の宣告

○議長（熊谷 健作君） 皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は15名です。定足数に達していますので、これより本日の会議を開きます。

会議の議事は、お手元に配付しております議事日程により行います。

日程第1. 一般質問

○議長（熊谷 健作君） 日程第1、昨日に引き続き、一般質問を行います。

2番、阿部真二君。

○議員（2番 阿部 真二君） 皆さん、おはようございます。ただいま御指名いただきました、2番、阿部真二です。本日は通告書のとおり、3項目5件の質問をさせていただきますので、明確な答弁をお願いいたします。

観光振興の活性化について伺います。日出町には多くの観光地や観光資源があり、観光投資も継続し行っていることは皆さん御存じのとおりです。特に、日出城址周辺や大神回天記念公園周辺には巨額の投資を行っており、年々来客者も増加傾向にあるように感じています。そこで、日出町の観光地の中で来客者が多いところはどこですか。また、上位5カ所について、年間の来客者数とそれぞれに対する町からの支出、助成、補助金はそれぞれいくらかお伺いします。

次の質問からは質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 阿部議員の御質問にお答えいたします。

日出町の観光地の中で、来客者が多いところはどこか、上位5カ所についてということと、町からの助成金についてということであります。

まず、町内の宿泊施設を除いた観光施設の中で平成26年度実績でいいますと、まず1番目がハーモニーランド。ハーモニーランドにつきましては、ここ3年、40万台をずっと継続しているようでありまして。あと、大神ファームが2番目、次に二の丸館、糸ヶ浜海浜公園、的山荘というような形になっておりまして、民間施設につきましては、入場者数等につきましては統計目的というようなことで調査をしておりますので、この場では控えさせていただきたいと思っております。その中で、二の丸館については、昨年が2万8,279名、的山荘が1万7,037名というような形になっております。

その中で助成金についてであります。民間施設等に特に助成金というような形の支出は行っておりません。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ありがとうございます。想像どおりというか、ハーモニーランドが40万台ということで最も多いと、これ皆さん、聞かずとも知っていたと思うんですけども、そういうところで、このハーモニーランド、年間40万人を3年間継続しているということで、こういうハーモニーランド、これキティちゃんということで、ワールドワイドのブランドであるということは皆さん知っていると思っておりますけども、このハーモニーランドについて、町として何か協力をしてウイン・ウインの関係を築こうといったような検討はされているでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） ハーモニーランドにつきましては、先ほども申し上げましたように、40万台という多くの方が町外から見えているということで、そういう意味では、またハローキティということで、世界的な有名なブランドもございます。そういう意味で日出町としてもぜひ生かしていきたいなというふうに思っております。そういう中で、今現在ハーモニーランドを運営しておりますサンリオエンターテイメントと協議を行っているわけではあります。ちょっと具体的な成果まで上がっておりません。そういう中で、エンターテイメントの親会社でありますサンリオが最終的ないろんな決定権を持っておりますので、そういう意味でサンリオとも直接近いうちに協議を行いまして、日出町の観光振興につなげていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ただいまサンリオまたはサンリオエンターテイメントと協議中ということで、非常に期待したいと思います。

これについては、昨年、総務産業委員会のほうでサンリオピューロランドというか、東京都多摩市のほうに行政視察に行かしていただきました。その中で多摩市の取り組みとしては、ハローキティに会えるまちということで、年間400万ぐらいの予算、具体的には399万円なんですけども、ハローキティと仲間たちに会える事業ということで、キティちゃんが毎週土曜日、ピューロランドから出てきて一般の方々とふれあうといったような活動、ハローキティのラッピングバスってということで、これについてはどっかのバス会社と連携して、著作権料を払った上でキティちゃんの絵がついたバスを走らせていると、あとサンリオキャラクターのイルミネーション設営等々、イルミネーションスペシャルパレードというようなことと多摩センターっていう遊歩道があるんですけども、そこにサンリオのキャラクターのフラッグを200メートルぐらいですか、ずっと掲げているといったことで、その5項目で約400万を使ってにぎわい空間を創出している。

以前、私この場で一度言ったことがあるんですけども、暁谷駅が来年かな、開業予定ということで、そういう人が集まる場所、そこに日出町としてもハローキティに会えるまちという言葉を使っていいかどうかわかりませんが、そういうことを打ち出して、例えば暁谷駅のロータリーの中央あたりにキティちゃんのモニュメントみたいなものを置かせてもらうなど、ここに来ればキティちゃんに会えるんだよというPRをするのもいいんじゃないかというふうに思いますけども、そういう取り組みもこの先ほど答弁にありました協議の中に含まれているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） ハローキティの活用ということで、今現在考えられる部分で幾つか申し上げますと、ハローキティの絵柄の入った住民票を発行するとか、あとハローキティに日出町の親善大使になってもらうとか、あとハローキティに日出町の住民になってもらうというような形です。あとまた暁谷駅にハローキティ並びにサンリオのキャラクター等を配置しまして、日出町とハーモニーランドというものが密接な関係であるということをしてPRしていくということは考えられるのかなというふうに思っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 先ほど言ったようなこととあと親善大使や住民票を置いてもらうといったようなことを考えているということなので、これも似たようなことなんですけども、例えば名誉町民というのをキティちゃんに与えて、名誉町民として活躍してもらうといったようなこと

もその中に入れていただけたらいいかなと思います。

先ほど助成金、補助金というのは上位5カ所について特になんていうことなんですけども、そのほかに町には観光協会等々、関係諸団体がありますのでそこに対するそういう観光補助とか助成というのはございますでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 町内の組織に対しましては、日出町観光協会という組織がありますので、観光協会に対しまして今年度につきましては1,020万の補助金を出しております、その中で町とは違った立場で観光協会としての観光振興に取り組んでいるところであります。以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ありがとうございます。観光協会に1,020万、今年度ということですけども、そのほかには特に補助、助成等は行ってないんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 補助、助成とは若干違うかと思いますがけれども、日出町だけではなく近隣の市町村とか大分県全体とか、そういう中の一員という形で日出町が加わっております。その中で例えば千年ロマン観光圏協議会という組織がございまして、それは中津から別府までの8市町村ということで、そのメンバーということで、そこに対しまして負担金というような形で今年度75万負担しております。あと大分県全体でツーリズムおおいたという組織がありますので、そういうところに7万4,000円、それから、オラショ巡礼の道ということで昨年創設しましたが、国東、杵築、日出と一緒にやっておりますが、そこに負担金40万というような形の、負担金というような形でそういう予算支出を行っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 観光協会以外にも負担金という形で関係市町村との連携で支出をしているということで、それぞれについての費用対効果みたいな、そこに加わって一緒にやることによる町のメリットというのは、どのようなものがあるでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 観光を日出町だけ単独で、日出町に来てもらってそれで終わるというような形ではなかなかやっぱりお金を落としていただけないという中で、ほかの市町村と連携する中で泊を伴った観光、千年ロマン観光圏につきましては二泊三日のそういう観光形態を目指して、そういうルートとかをつくるような取り組みを行っております。そういう中で日出町だけでなくよそにも行ってもらう、別府に来た方が日出町に来てもらうというような形で、そういう日出町にも観光商業していただくというような形のメリットを期待しているところです。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ありがとうございます。先ほど、冒頭に言いましたハーモニーランドとの連携、協力といったところとそれぞれ負担金として加入している部分、外から見ていてどうか、ちょっと第三者的に見ると、日出町はPRの仕方が非常に下手だなというふうに感じる部分がありますので、こういう負担金も払ってやっているということなので、ぜひそういうのを思いっきり活用して、日出町の観光の振興につなげていただきたいというふうに思います。

続きまして、今後の観光投資はどのように計画されているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 今、言われました情報発信につきましては、当然これから、弱いと言われておりますけども、積極的に取り組んでいかないと悪いなというふうに思っておりますが、その中で観光投資といいますと、今年度地方創生予算が組まれておりまして、その中で大神海岸線地域において回天基地跡の調査、それから海岸線地域の観光ビジョンの策定の予定をいたしておりますので、その結果を受けて具体的な施策に取り組んでいきたいなというふうに思っております。暘谷駅周辺についてはある程度整備も進んできましたので、大神地域を中心に今後は投資といいますか、その辺に積極的に取り組んでいきたいなと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 大神海岸線地域を中心とした観光に投資していくということですけども、これについても何か他市町村に先駆けたような施策、昨年12月議会で、この場で提案させていただいたんですけども、姫島村では、姫島エコツーリングということで2人乗りの電気自動車を使った観光スポットを巡るルートを開発してそこそこのにぎわいを見せているというふうなこともございますので、何かほかがやっていない、やってもそれを徹底的にまねするとか、いいことはまねをして日出町ならではの観光に生かしてほしいというふうに思います。

次の質問に移ります。町内各自治区事業の活性化策について伺います。少子高齢化が進み、各自治区の事業が縮小傾向にあることは、皆さん御存じのとおりであり、区に入らない戸数も増加傾向のように感じています。また、地域住民のコミュニケーションもとりにくい状況になりつつあり、あと数年もすれば、区自体の運営も非常に困難な状態になるのではと危惧される場所があります。そこで、各自治区への支援状況はどのようになっているのでしょうか。これについては、工数的な支援、これ工数というのは町の職員等々が出向いて実際に活動するという支援、金銭的な支援、物的な支援、それぞれについて答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長、村井栄一君。

○総務課長（村井 栄一君） 阿部真二議員の御質問にお答えします。

現在、町内76の自治区がございますが、区長を中心に運営や課題解決に取り組んでいただい

ているところであります。区の活性化や多くの課題解決するためには住民が自ら知恵と行動力により主体的な活動が必要だと考えるところであります。町としても、創意と工夫による特色あるまちづくりを推進するため、自治区に対しましてさまざまな施策を取り組んでいるところであります。

昨年度より全ての職員を各自治区に割り当て、地区支援員として区と役場の橋渡しをお願いしております。月2回の町からの広報物を区長をお願いする際に、面談いたしまして区の状況を聞き取り、職員も一緒になって区の抱える課題解決を図っていきたいと考えているところであります。

また、先進的な取り組みをしている区に対しましては、まちづくり支援補助金として2年間にわたり各年度10万円ずつ助成金をする制度もつくっております。昨年は豊岡地区の3区が取り組んでいただいているところであります。現在、自治区長さんにはぜひ取り組んでいただきたいということで、勧奨、勧誘をお願いしているところであります。

そのほかにも地域防災力の向上のために日出町自主防災組織活性化事業補助金、日出町防犯協会連合会による防犯灯の設置支援など、さまざまな施策を実施しております。また宝くじの社会貢献事業として実施する地域コミュニティ助成事業やごみステーション設置助成、健康応援金などいろんな制度がございますが、各種制度の概要をまとめました冊子、日出町区長必携というのを作成しております。現在、区長の総会等で全区長さんにお配りして、各役場の事業内容や区に対する支援等を全て記入している部分であります。これを参考にさせていただいて、区長さんの仕事に取り組んでいただきたいとしているところであります。

以上、いろんな事業の周知等はいろんな区長さんの会議とか、その中でお願いしながら推進しているところであります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 町職員を各区に配備というか、配備して各区の支援を行っているということで、これについて具体的にというか、どういう取り組みというか、実際に各区と職員さんが会話した中で、何か新しい取り組みや活動が生まれたような事例ってありますか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 現在、各広報紙とか回覧を配るときに区長さんに面談してやっているんですが、なかなか出身地区の職員が行けばいいんですが、全く違う町内に住んでいない職員もいますし、全く違う地区の職員がその地区にお伺いするわけですが、現在地区の中で活動している町職員については、区の例えば会計さんとか区の体育部長とかいろんな役員、班長さんをしていただいて、区の中で頑張らせていただいておりますので、その職員については大体、全体の区

の中の7割ぐらいは地区出身の職員が、その地区の中で各種地区の自治区の中の役員をしているんじゃないかと思っております。その中でいろんな手伝いとかをしていただいておりますので、地区支援員を今現在設置しているんですが、なかなか昨年からはじめたばかりで、まだ現在なかなかこちらの要望等と区長さんの要望等が合わない部分があったりして、あれがあるんですが、区長さんのかかえている問題については、原課に伝えて原課のほうから区長さんに連絡するというような手続きを今とっているところであります。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 必ずしも町の職員の方がそういう各区の役を担っているというふうには思えない部分もあるんですけども、できるだけ積極的に区の行事、役に支援をしていただけるよう指導のほうもしていただきたいというふうに思います。

先ほど、まちづくり支援補助金ということで、2年間の補助があると、その中で豊岡で3つの区が取り組んでいるというか、補助しているということをお答えいただきましたけども、具体的にどのような活動がされているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 豊岡の現在3地区が取り組んでいただいているわけなんですけど、内容的には高齢者サロンというのが1カ所、あと公民館の備品等購入制度、公民館の中で活性化やりたいということでやっている地区が2カ所ございます。高齢者サロンについては、結構評判がよくて、今までお年寄りの方で出てこなかった方が、地区のそういうお年寄りの集まりがあればいいということで上がってきておりますので、今年度もまた昨年に引き続き申請が出てやっているとあります。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 今、そういう高齢者サロン等々が非常に好評だということで、これについてほかの73地区に対して、何かこういう活動を非常にいいよといったような横の連携というか、報告みたいなことは何かされているのでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） まちづくり補助金については、我が区はよその区に対して自慢できるということでやっていただきたいということで、要望をとっているんですが、なかなか区の、今までやってきたことでもいいですよと、ただし例えば飲食とかはだめですよ、研修とか、そんな分については助成しますよというのでお願いしておりますので、今回ある区は高齢者サロンやっておりますんで、区長のいろんな部分の中でこういう事業もやっている区がありますので、ぜひうちのほうの単独事業でやっておりますので、縛りはあんまりきつくしておりませんので、区長

さんと相談しながら、できるだけ区から相談があれば、うちのほうのその10万の中で区のほうには助成していきたいと思っておるところであります。なかなか区の取り組みの中で高低差が結構ありますので、一生懸命やっている区に対しては、こちらのほう一生懸命応援しますということで、できるだけ応援していきたいと思っておりますので、区長さんの取り組みをお願いしているところでもあります。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ぜひ、そういう非常に優れた補助金制度でありますので、PRするなりして全体の町としての各区が活性化するように努めていただきたいというふうに思います。

ちょっと提案というかお伺いしたいんですが、例えば青年部みたいな組織があつて、もう青年部も単独ではできないといったような場合に、近隣の、隣の地区とか向こう隣の地区とか2つ、3つの地区が合同で何かやろうというときに、それに対してもそういったまちづくり補助金なのか、何かわかりませんが、そういった何か補助、助成というのはできるんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 総務課長。

○総務課長（村井 栄一君） 区をまたがしてというんですか、2区とか3区合同でやる分については、一応今うちの助成金については区単位でやっておりますが、そういう分については弾力的に運用してやっていきたいと思っております。区のほうで一生懸命取り組んでいただけるということであれば、うちのほうもその内容は町単独事業でありますので、要綱等緩めて少しでも区のほうで活性化するように助成はしていきたいと思っております。ケース・バイ・ケースによると思いますが、区長さんの相談あればぜひそういうのを相談していただきたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） ぜひ各地区の活性化のために、これも税金を使つての活動になるかと思っておりますので、できるだけ平等に使っていただけるように支援していただきたいというふうに思います。

続きまして、「移住・交流ポータルサイトおおいた暮らし」によると、県内18市町村において、地域おこし協力隊の活動が行われているのは8市、日田市が1人、佐伯市が2人、臼杵市2人、竹田市14名、豊後高田が6人、宇佐市が2人、由布市が1人、国東市4人の32名が今のところこのポータルサイトに載つけられて活動を行っています。そういう活動を行っており、地域活性化の起爆剤になっています。

特に竹田市では地域おこし協力隊の活動が活発に行われ、市を上げての産業に発展しつつあると伺っております。また、竹田協力隊新聞を発行するなど情報発信も積極的に行っているようです。

そこで日出町についても、ことしからなんですが、地域おこし協力隊員が発足していますので、

その活動内容、活動予定はどういうふうになっているか、お聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） 阿部議員の御質問にお答えをさせていただきます。

地域おこし協力隊につきましては、今年度より募集を開始しておりまして、2名の方を採用するように予定をしております。1名につきましては8月1日より、もう一名につきましては10月1日より採用するようにしております。協力隊を採用して時間がたっておりませんので、実績はまだありませんが、先ほど議員が申しあげました県下先進地いろいろございます、他の市町村の状況を見ながら、活動内容を決定していきたいというふうに考えているところでございます。

まずは日出町を知ってもらいたいということで、日出町にいろいろの施設、観光施設等を今勉強しているところでございます。日出町に移住したいと考えているいろいろな方々の先駆者という形でやっていっていただきたいというふうに考えているところでございます。任期が最長3年間でございます。3年後、協力隊員が自立いたしまして日出町に永住できるような、そういう事業をお互い話し合いながら活動内容を決定していきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 採用したばかりで、活動実績等々はないという、ただ、活動内容については先進地の活動を学んで生かしていくということということですが、まずは先進地の活動内容を徹底的にまねるということもありなんですけども、その中で日出町ならではの活動につながらなければまねただけになってしまいますので、そういう行政としてそういう地域おこし協力隊に参加、手を挙げていただいた方を誘導するということの方がよくないんですけども、こういう方向に活動していただきたいなといったような行政としてのものもろみというか、思いというのは何かあるでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） まず日出町、今まで人口が減少してなくて、こういう移住策につきましては、あんまり事業はしてなかったところでございます。今後は地域おこし協力隊をつかいつつながら移住フェア、東京、大阪、福岡等で県が主催した事業もございます。そういう移住フェア等に積極的に参加して、日出町に移住をしていただきたいというフェアの活動を行ってきたいというふうには考えているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 非常に頼もしいというか、今人口減少が叫ばれる中、人口の増加

に向けた一つの活動ということで、非常に期待したいと思います。が、逆にすごく移住者がふえたとということがあったとしたときに、そういうよそから受け入れる方を受け入れ先、住むところにしろ、何ていうんですか、生活環境をどこに準備するのかっていうような、もう一個先のことは何か考えられているでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 当然、今空き家対策等で空き家を空き家バンク等に登録をするように当課で今頑張っているところでございます。空き家活用もその一理に当たるというふうに思っております。また、民間が施設のアパート等も空いているところがございますので、その辺も利用させていただきたいというふうには考えているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） そういった場合に、その家賃等々は町の負担になるんでしょうか、それとも、協力隊として来た方の実費負担になるんでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 民間アパートにつきましては、家賃については町のほうの負担で支払いをしているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） その町負担というところで最長3年という上限があるということですね。はい、わかりました。これについても、先ほど先進地の活動を学んでやるという活動を取り組んでいくということですが、これについては確かに先進地を見るだけではなくて、調査研究でさらに内容を分析をしないと町に生かすことはなかなか難しいんじゃないかと思しますので、そこは行政の力を貸して、我々も協力したいと思しますので、町ならではの特性を生かした非常に周りの市町村が日出町の活動すごいねというような活動に非常に期待したいと思します。

次の質問に移ります。町有財産の有効活用について伺います。来年3月末をもって休校が決定している南端小中学校の施設について、今のままいくと閉校となると思いますが、有効活用をどのように考えていますか。ちなみに杵築市ではことし3月末に閉校となった旧山香農高跡地について、閉校後5カ月の短期間で東京生薬協会との調印が締結され、研究施設としての活用が決定したと聞いています。実際、高校施設は県の資産、南端小中学校については町有財産という位置づけは違うんですけども、日出町としてそういう休校閉校になる学校を今後どのように取り扱っていくのか、取り組みをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 教育総務課長、宇都宮敏樹君。

○教育委員会教育総務課長（宇都宮敏樹君） 阿部真二議員の御質問にお答えします。

南端小中学校の閉校後の活用計画についてということでございますが、御存じのように南端小中学校につきましては、南端地域にとって地域住民の皆さんの社会体育や児童生徒のふれあいの場であり、地域交流の拠点であるというふうに考えております。来年度から休校ということになります。施設は町内の中では比較的新しい建物でございます。現在、まだ具体的な利用計画というものはございませんが、施設を生かした有効な活用ができることを最優先に考え、地元にとってもメリットのある活用ができるよう今後関係課とも連携しながら検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） これから関係課と活用を検討することなんですけども、その場合に南端地域の方々も含めて、その行政側で一方的に考えるのではなくて、地域の人も交えてどういうふうに活用していくかというようなことを検討してほしいというふうに思いますけども、その検討の中に地域の方を入れるというふうな考えはありますか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長、西野智行君。

○教育長（西野 智行君） 阿部議員からいつも南端小中学校のことについて、大変御心配をいただきまして、誠にありがとうございます。今、地域の住民の方々を交えて閉校後の活用について検討をということでございます。教育委員会のほうで南端中学校について、休校にするというのを昨年の12月当初に決定をさせていただきました。それ以後、地域の方々からも含めてでありますけども、そう多くはございませんけども、活用についてのアイデアを私のほうに進言、提案をしていただいていることもございます。そしてまた地元住民の皆さんからも、休校後についての施設の利用について、早く検討してほしいという要望も町長部局も含めてあっているところでございます。私としては地元周辺への波及効果のある活用が望ましいと考えております。その意味では教育だけではなくて、農業、商工業そういった幅広い分野での活用を、町長部局との関係課とも含めて検討が必要だろうというふうに思っております。そういった中で、必要に応じて地元住民の皆さん方にも、ある程度の案ができないとこれまた難しいところもございましょうから、そういった流れの中で御意見をお聞きするというのも考えてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 2番。

○議員（2番 阿部 真二君） 地域の方々から活用のアイデア等々も出ているということで、地域、先ほど課長の答弁ありましたけども、地域の振興の拠点ということでもありますので、あの施設、地域の方からしてみるとなくてはならない場所であり、神聖な場所になっていると思います

ので、そこはできるだけ地域の方の意見や要望生かして、さらに町としての発展を含め、どういう施設にするのがよいのかしっかり検討した上で対応をしてほしいというふうに思います。

以上で私の質問を終わります。

.....

○議長（熊谷 健作君） 14番、佐藤二郎君。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 14番、佐藤二郎でございます。まずは、町長以下、町執行部におかれましては、平素より町民福祉の向上、そして日出町発展に御尽力をいただいておりますことに対しまして、まずもって敬意を表したいと思います。

さて、国は地方分権を唱え、多くの事務事業が国から県へ、そして大分県から日出町へと多くの権限が委譲されました。このような中、平成の大合併が進められ、当日出町においては単独のまちづくりに邁進いたしました。しかしながら、社会の情勢は景気の低迷、さらに国からの地方交付金の削減により、住民サービス、インフラの整備の遅れも多々起きたことは事実でございます。大変厳しい大変苦しい10年間であったと思います。

いよいよ新しい時代がまいりました。国の示された地方創生でこれからの日出町が試されます。これまでのように自主財源の過不足分を交付税で賄われる時代は終わり、自治体の指針をしっかりと持ち、自らの施策を掲げ、将来の日出町ビジョンを見据えたまちづくりが求められようとしております。自治体自らで決定し、自らで責任を取らなければなりません。いわば、市町村間の競争の時代といっても過言ではないと考えます。そういった観点から今回の定例会において通告をいたしました質問に対しましては、丁寧にして端的に御答弁いただきますことを、まずもってお願いを申し上げておきたいと思っております。

それでははじめに、地方創生についてお伺いをいたします。

これまでも、議会のたびにどのような方向づけをされているか、お尋ねをしてまいりましたが、9月の定例会までには報告をすると答弁されておりました。平成26年度補正予算として、地方創生先行型として既に15の事業が交付金として付けられております。さらに、先般は3事業を現在申請中と報告がございました。日出町でも少子高齢化が進む中、人口の減少傾向が見られるようになり、庁舎内においては、庁舎内に立ち上げられた創生推進本部で日出町の人口ビジョンが策定されております。そこで国は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の一つ、地方における安定した雇用を創出する。一つ、地方への新しい人の流れをつくる。一つ、若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶える。一つ、次代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携すると。この4つの基本目標が示されております。これに基づいた日出町の総合戦略の政策目標はどのようになっているか、まずお伺いをしたいと思います。

後の質問は、質問席からさせていただきます。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） 佐藤二郎議員の御質問にお答えをさせていただきます。

まず、地方創生に関しましては説明できる内容ができ次第、議会の全員の方に機会をいただきまして説明をしたいと考えておりますので、その点は御理解をしていただきたいと思いますというふうに思っております。

さて、まち・ひと・しごと創生の中に総合戦略の目標を定めるようになっております。日出町総合戦略におきましても、先ほど議員が申しあげました国の4つの目標と同様に、日出町も4つの基本目標を定めているところでございます。

1つは、産業振興によりにぎわいと活力をつくるということでございます。仕事をつくり、人を呼び込むことを行ってまいりたいというふうに考えております。

2番目に新しい人の流れをつくり、定住を促進するというところでございます。住みよさをアピールし、住みたい、住み続けたいと思われる施策を行っていきたいと考えております。

3番目に結婚、出産、子育て、教育を支援するというところでございます。子育て世代やこれからその時期を迎える若い世代が、子供を産み育てる場所として選択されるように努めていきたいというふうに考えております。

4番目でございます。安心、健康、快適に暮らせ、時代にあった町をつくるということでございます。魅力あるまちになるための施策に取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上のように、仕事が人を呼び、人が仕事を呼ぶ好循環を確立しまして、町をつくっていききたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 端的にお答えいただきました。4つの示されている国からの施策、指示ですね、それをやはり日出町としても基本目標に4つ今政策推進課長から上げていただきました。それでは、今詳しい施策については取りまとめを皆さんでまた御報告しますと、議会の場がそれを報告する場所だと私は思っておるんですけども、これはまた横にちょっと置かしていただいて、後ほど具体的にもお伺いしますんで、それじゃ、この4つの基本目標をつくられたと、でき上がりましたと、この4つの基本目標をつくれたこのつくり方、手順、どういう形でどういうふうにこの4つを掲げるようになったのか、これ、それじゃ簡単に結構ですが、お願いします。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 日出町では昨年、町長を本部長といたします日出町創生推進本部を発足させていただいたところでございます。推進本部の中には4つの分会を設置をさせてい

ただきまして、分会からの提案、他の分会との合同による提案、または単独の課からの提案を募集してまいったところでございます。また、各課から選出されました17名からなる若手職員のワーキンググループを発足させまして、その17名を3つの班に分けまして、提案をしてもらったところでございます。その他、町内在住の二十から49歳の男女1千人に対しまして、アンケートを実施いたしました。回収率は33.9%でございましたが、貴重な御意見をいただいたというふうに考えております。また、学識経験者や町内在住を含む産官学金労言の組織を2つ立ち上げまして、意見をお聞きしたところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） これまでも議会のときに今課長から御報告ありましたように、創生推進本部で、庁舎内でグループ分けてと、こういうふうにお伺いしました。やはり役場の職員、大変優秀な人も多いわけで、取りまとめられたこと、本当に敬意を表したいと思いますが、やはり地域の住民の方がどういうふうなものを日出町、どういう方向の日出町を望んでいるのか、そして先ほど来、御説明、報告、答弁がありましたように、やはりずっと住みたい日出町、そして日出町に住みたいと思う人たち、こういう人たちがやはり一番必要じゃないかなと思います。そういう中でやはり見識者の方、産官学金労何とか言いましたね、そういうような人たちの意見、団体だとかいろいろあったと思うんですが、アンケートも4割ぐらいの方、これ集約してやはりこの4項目できた、大変重みのあるものだと思います。

少しそれじゃあ突っ込ましていただきます。そういう見識者の方々、団体の方、地域の方々、こういう方々とのそういう意見を聞く場って言いますか、これどれぐらい、回数聞きましょう、何時間くらいやられましたか。それ、どういうふうにこの4項目に反映されたか、その点お伺いします。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） よく言われております産官学金労言の学を除きました産官学金労言の9名の方々の組織を1つ立ち上げております。メンバーといたしましては、産としていろいろな産業から選出をいたしました5名の方、それから県庁職員、金融機関、労働者、報道機関の各分野から選出いたしまして、合計9名の組織をつくっております。このメンバーによりまして意見懇談会をこれまで3回ほど開催しております。1回につきまして約2時間ちょっとぐらいでございます。

また、学といたしまして、これまで日出町の各種分野におきまして、御助言をいただいております大分大学、別府大学、日本文理大学の各大学の先生方4名と県庁職員の5名からなる地方創生有識者会議を組織いたしまして、この会議は1回開催をさせていただいております。

先ほど言いました意見懇談会、それから有識者会議におきまして、各先生方、委員さんから貴重な御意見をいただきまして、人口ビジョン、総合戦略の策定に反映させていただいているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） どうなんですか、十分御意見をいただいて、御提言をいただいたと思っていますか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 内容的にかなり難しい点もありましたので、十分とはいえないかもしれません。しかし、いろんな分野の方々から御意見をいただいております。まずは観光分野、それから漁協分野、それから農業分野、商工分野、いろいろな分野の方々から意見をお聞きしておりますので自分の専行する分野につきましては、貴重な御意見をいただいたというふうには理解をしています。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） それ、私何で聞いたかって言いますと、これまでこの総合戦略で基本目標日出町どうするんかというのは、これまで議会のたびに、定例会あったと思いますが、このときに各担当課長さん、ここにあられる課長さん何人かは私にその質問受けたと思いますが、他の市町村の様子見て決めますと、こういう声だったんです、ここで暴露しては申しわけないんですが。だから地方創生っていうのは、その町に、その町のある姿、その町のあるべき姿をきちっとやはりここで打ち出して、県や国にお願いしそのまちづくりをしようということだったと思うんです。そのお答えが、管理職の方々、他の町の状況を見ながら、他の様子を見てからという回答しか返ってこなかったんで、これどうなるんだろうかな、大変心配したんです。そこで今担当課長にお伺いしたんです。十分な審議できたかな、議論できたかな、こういうふうに変な楽しみにしております。中身について、一々お伺いしたいんですが、時間がございませんので、委員会でお伺いしたいと思いますが、それじゃあ、課長言いにくいと思います。今私申し上げたことをお伺いします。日出町独自のこの目玉、何をうたっていますか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 目玉的施策はということでございますが、これまで、3月議会で御承認いただきました地方創生先行型の11事業、それから地域消費喚起生活支援型の4事業、それから上乘せ分といたしましてタイプ1でございますが、日出町の幸ブランド化推進事業、それからタイプ2でございますが、雇用拡大推進事業と新規需要米緊急拡大事業この3事業はただいま申請をいたしておるところでございます。

これら合計18事業につきましては、他の自治体も行っておる事業もあるわけでございますが、

日出町の特色を入れた事業になっているというふうに考えているところでございます。平成28年度の当初予算の策定がもうじき入ってまいります。昨日も申し上げましたが、新交付金が1千万ほど、国のほうが予定をいたしております。その部分の交付金を獲得できるような形でいろんな事業を行っていきたいというふうに思っております。まずは、予算獲得を向けてやっていきたいというふうに思っておりますので、詳細な28年度以降の事業につきましては、予算確定後ということで御理解をしていただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 申しわけないんですが、正直言って町長、日出町の目玉的、日出町ならではという気持ちが今課長の答弁伝わらなかった、私。皆さん、どういうふうに受けとめたかわかりませんが、非常に抽象的でわかりにくくて。

先ほど、阿部議員が一般質問されて、ハローキティちゃん、何でバスにつけんのかいと、新しい駅にキティちゃん呼んだらどうかいと、やっぱりこういったわかりやすい国民にそして日出町の住民の方々に分かりやすいような具体的な施策の中に、目標の中に入れていただきたいと思います、何かポンとそれ言っていただけると私らその基本目標1行活字で見ても中身わかんないです。こういうところもう少し行政の方上手に御議論お願いできませんか。先ほど、阿部議員もおっしゃっていますが、皆さん方PR下手ですねというのは私も重ねて申し上げておきたいなというふうに思います。

どうなんですかね、先行型で11、4事業、そして新たに申請3事業ですか、1千万枠があるということなんですが、これ、どれ見てもどこの市町村もやっていることで、日出町っていうのは、先行型ですからよくわかるんですが、この新たなものにしても、どうなんですかね、日出町っていう特色っていうのが生かされているんだろうかなと、もっと具体的なやはり町長の施策、今回の新たな施策の中で、町長の施策、そして皆さん方がふるさとを思う、日出町をどうしよう、やはりこれだけ人が減ってきてる、人口減ってきている、どうかしなきゃならない、皆さん思いあると思います、各課担当のところ。これ具体的に、ぜひ今定例会でこの施策説明しますか、ちょっと議長それお伺いしましょう。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○政策推進課長（井川 功一君） 先ほど申し上げましたとおり、議会の全員の議員さん方に説明をしていただける機会をいただけましたら、総合戦略の案につきまして、御説明をさせていただきますと思います。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 議長、ぜひ全協でこれ報告を、これ時間多分長くなると思うんで、ここで細部にわたってできませんので、お願いしときたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 担当課から申し出は一応いただいておりますので、全員協議会でするようしております。

○議員（14番 佐藤 二郎君） ありがとうございます。ぜひ、そういう形でこの件については全員で皆さん方、全議員の15人の議員もやはり十分に承知した上で議論を深めたいと、また委員会で議論していきたいなとこういうふうに思います。

やはり今一番の課題は、日出町も先ほど来出ておりますが、人口減少、町長いつも言っております、やはり流入人口、住宅建てましょうやと、若い人たちに来てもらいましょうと、そのための施策がこの4項目だと思うんです。あわせてやはり最後にあるのがどうしても高齢者がふえてくると、高齢者がふえた方々に人口へ減さないためには元気で長生きしてもらおうと、多分そういうことやないかと思うんですよ。健康増進課長、そうですね。ぜひ、そういう形で人口2万8,000人を下らないように、やはり2万9,000に近づけるような日出町であってほしいというのが、町長の願いであり、日出町の願いでもあろうかと思えます。

そういう中で、どうしてもやはり先ほど申し上げましたように、日出町の人口ビジョンというのが気になります。人口ビジョン、これをやはり掲げた、施策をつくっていただいた、こういうことでやはり移り住んでもらう、そして長生きをしてもらう。その間はやはり若い働く人たちの場をつくらなきゃならない、そして最後には少子化です、やはり2人以上のお子さんを持っていただきたい、子供を産んでもらう、出生率上げる。さらには産んでもらった子供さんを育てるためには今の社会大変厳しい状況がある。これを支える環境をつくるっていうことが、一番大きな課題じゃないかなと。私も保育所を経営して36年になります。子育ての環境は本当に変わっております。やはり行政の支援があることによってあと一人子供を産もうというお母さん方たくさんいらっしゃる。こういうことが行政に通じないことが非常に私の今歯がゆさでございます。町長、このことをぜひしっかりと受けとめていただきたい、こういうふうに思います。そういう点でこの人口ビジョンについて、少し、町長何か御意見があるようですから、町長からお伺いしましょう。

○議長（熊谷 健作君） 町長、工藤義見君。

○町長（工藤 義見君） 人口ビジョンの前に、地方創生事業を含めて、地域の今後の対応で大変重要なことだと思います。私もぜひ、私の所見も申し上げて今後の計画の中に活かしてまいりたいと思います。

まず、17年度に第4次総合計画をつくりまして、18年度から平成27年度の今年度までが10年間の計画を立ててまいりました。人と自然が調和するふれあいと活力のあるまちを、こういうことを目指してやってまいりまして、ちょうど今年は最終年度になり、御案内のとおりであります。ことし中に第5次計画をつくり上げて、向こう10年間の長期計画を上げていきたい。

これを27年度中につくり上げ、28年度から発足させていきたいとそういうふうに思っております。

そういうことを前提にしながら、先ほど議員が日出町の力が問われるということが一番最初申されました。まさに私はその通りだと思います。私は県下の18自治体、市町村の中で、私は日出町と類似性のある市町村というのではないと思っています。日出町が独自の、かなりいろんな人口、いろんな状況を見ても独自のまちづくりであると、そういうふうに思っていますから、ここで独自のまちづくりをしっかりとやっていかなきゃならんと、そういうふうに思っております。それと同時に自治体間競争を行う時代ということ、まさに私はそういう時代に入ってきたと思います。人口をどうしていくか、自然増は急にはできないと、そういうふうに思いますが、どうしても人口問題、先ほど、今からお話をさせていただくわけですが、まち・ひと・しごとをどのように、そしてそれも長期にわたっていかに対策を講じていくか、そういう意味ではもう10年間、日出町のまちづくりは、中心市街地の活性化を含めて、国東半島中心地域の中核的な地域になるんだという目標を掲げて今日までできております。そういうことですから、きょうも先ほど申し上げましたような基本目標をしっかりと把握し、前提にしながら、やっぱり多くの人たちが住みたい町になっていく。そのときに先ほど民間の皆さん方の意見の中で、大変貴重な意見で、私の今ここに、耳に残っておりますのは、人口はふえていきますが、日出町は多くの人たちが他の地域よりも迎える体制が十分ではないのではないか、若干住みにくいんじゃないかとある意味では、だとか、地域住民のいろんな関係が、ぜひ積極的に全町民が新しい世代の人たちを迎えられるような雰囲気、体制をつくってほしいというのがございました。これは大変重要なこと、なぜかという日出町は人口の増加をきたすことができる町であります。努力すれば努力するだけ成果の上がる町だと、そういうふうに思っております。

今回の人口の対策の中で、県下人口減少率一番小さくなる、そしてまた現象まで止められるかどうかわかりませんが、その中で意欲的な人口政策をとっておるということも申し上げて、議会の中でも御質問いろんなものがあると思いますので、御説明を開催させていただきますが、私としての考え方について触れさせていただきたいということでございます。以上であります。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 町長、ありがとうございました。ぜひ、今町長の思いを担当課大変御苦労すると思います。また、施策が幅広くございます。やはり万民にといいますか、全町民にといいますかという形で取り組まなきゃならない、本当に大変だと思います。ぜひとも今町長の所見のとおりの日出町になるように、そしてさらにはこういった人口ビジョンという策定されました。これやっぱ右肩で落ちとるんです、横へなるか上へあがるような絵を描いてほしいな、これ、施策ですから。何か国かどっかわからないところが統計とったら、やっぱ右肩下がりだから下がり

そのまま使うんじゃないくて、今町長言ったような施策をきちっとやれば、日出町は他の市町村とは違って肩が右に上がりますよと、こういうような施策、取りまとめの政策推進課長、そういう、ぜひお願いしたいなと思います。非常に私も読まさせていただいて、いろいろこうするしつけさしていただいたんだけど、そういうところが懸念する材料が非常に多いということも事実です。ぜひともそういうことで強く要望しておきたいと思います。

それじゃあ、この件でもう一つだけお伺いしますが、やはりこの人口ビジョンというのは基になって、今町長言った、特に将来を担う人を移り住んでほしい、また出生率の問題等今申し上げたとおりでございます。こういうこと、やはり施策打ち出して実施計画そして半年たった、1年たったやはりその状況からいろんな施策に対して目標値を掲げていると思います。K P Iという目標値、こういうものをどういうふうにこの施策の中で生かされていくのか、それをちょっと申しわけない、担当課長、ぜひその辺のところ教えてください。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長。

○町長（工藤 義見君） 4つの基本目標の中に各施策を客観的に検証できるよう、施策ごとの重要業績評価指標K P Iを設けております。例といたしまして、基本目標1、産業振興によりにぎわいと活力をつくるの中には、観光産業の振興による交流人口の増加として、観光客数とか観光消費額をK P Iとして設定をさせていただいております。また、基本目標2の中に新しい人の流れをつくり、定住を促進するという中には、定住環境の向上といたしまして、新築住宅数とか開発申請にかかる住宅の区画数などを設定をさせていただいております。例として申し上げましたが、総合戦略の中には26項目ぐらいのK P Iを設置をさせていただいております。これらの目標数値に関しましては人口ビジョンに用いた統計資料や推計資料を引用活用している部分があります。人口ビジョンと総合戦略には相関性があるものとして理解をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） ぜひ、このK P Iというの、私もよくわからなくて今回少し読まさせていただきました。やはり行政というのは1年やってしまわないと、次の予算に反映するため1年間の予算結果を出して、決算やってこうだからこうしようと、これわかるんですが、やはり先ほど申し上げました競争の時代です。1年後では間に合わないんです。悪いときは早うカットしてください。そして新しいものに、次の施策に打ちかえると、こういうようなスピード感というのがぜひ私必要だなと、今回の地方創生の予算というのそういうふう感じております。ぜひこの点を全課長さんおられますんで、各課の施策の中で、これはぜひ取り組んでいただけるように、こういうところは議会に対してしっかりと監視をしていきたいなと、こういうふう感じ

じております。

私自身、一議員として大変反省するところがございます。先般、有志議員と一緒に中津市の議会を訪ねさせていただきました。1月前にです。そうしましたら、中津市議会は地方創生に対して早くから取り組んでおりました、議会全体で。やはり部会というのを議会の中に設けて、そして住民との対話を数多くやっておりました。ワークショップあたりも立ち上げてやっておりました。そして先般新聞にも出ていましたが、ふるさと中津の創生に向けた提言という形で、一次提言、二次提言というのを施策を議会が取り組んでやっている。私も議長にこの話を申しわけない、私自身が気がつかなくて、遅きに失して勉強したんで本当反省しているんですが、やはり私ども今基本条例に取り組んでおりますが、基本条例も重要ですが、この時期にやはり議会もこういう形で行政と一体となって車の両輪で取り組まなきゃならなかったこと、非常に反省をしております。そういう意味でしっかりと私ども勉強させていただき両方出していただいて日出町が競争に負けないように、住民の方々が日出はいいなと、また町長のおっしゃったように一人でも移り住んでくれるような、そして長生きのできる日出町づくりにしっかりと目を向けてまいりたいとこのように思っております。心意気をぜひ各担当の課長さん持ってください。お願いをしときたいと思います。

次の質問にまいります。次の質問は万里図書館跡の活用についてお伺いをしたいと思います。この件は先の新図書館の名称で議会でも意見が割れたことから、執行部として記念館や資料館の設置と具体的な方向が出されたことは御案内のとおりでございます。私も議員の一員として、早くから町長に資料館の設置をということを議会ごとに訴えてまいりました。今回取り組まれますことに対しましては大賛成で、もろ手を挙げて賛同しております。そこで伺います、ただ内容についてよくわからないので、1階はどうも資料館だとか2階は万里先生の記念館だとかこういう声があるんですが、どういう方向に進むのか、その辺をお伺いしたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長、野上悟君。

○生涯学習課長（野上 悟君） 佐藤二郎議員の御質問であります。資料館並びに記念館はどのような館と考えているかということであります。

まず、歴史資料館につきましては、今言われましたように1階部分を資料館として整備をしたいと。内容につきましては、整理保存を行うとともに、展示活動などさまざまな方法で、原始から近代の日出町の歩みを町民だけではなく、県内外の人たちに伝えていく施設として機能させていきたいと考えております。

次に万里の記念館につきましては、万里を中心に脇蘭室など郷土の歴史上重要な先哲の顕彰や資料の保存収集並びに調査研究を進め、後世に伝える機能を担わなければと考えております。この記念館につきましては、2階部分を記念館として活用したいと。

資料館並びに記念館の基本的な理念、考え方といたしまして3点考えております。1点目には、郷土の歴史資料や先哲資料を後世に継承する館として、2点目には町民が歴史に親しみ学ぶことのできる館、3点目が日出町の歴史や文化を発信する館を目指していきたいと考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 担当課長から詳しく御説明いただきました。原始から平早水台遺跡ございますね、日出町。やはりそういうところからの資料の展示だとか保存というふうに御説明いただきました。また、やはり後世に伝える、学ぶ、発信すると、こういったコンセプトをお持ちだというのは私感心したんです。ただ形だけつくるのかなと思ったんで、大変失礼ですが、そういうふうに思いました。

この問題出てから、私も資料館というのを申しわけないが歩いてみました。近くを、まず隣り杵築市にございます。やはり杵築の場合には杵築城下町資料館という名称なんです。どういうコンセプトかとお伺いしましたら、城下町全体を歴史公園として捉え、その中核的機能するのが資料館であると、こういうふうな構想を持っているんです。そして、臼杵見さしていただきました。やっぱ、同じ城下町なんです、臼杵の資料館はこれまでの先人たちの努力によって受け継がれてきた歴史資料や古典、書籍ですね、を初めとする文化財を活かし、過去の臼杵の姿を読み解き未来の臼杵のあるべき姿を考える場を目指す、こういうような非常に重いコンセプトを両方持っているんです。そして、教育長にお会いしたときに佐伯に新しいのできましたよと、佐伯なんて本当にお金かけてすばらしいです。やはり今言いましたように、古い時代って言いますか、中世以前からのその地域をそのまま取り囲んだ資料館なんです。

ですから、ぜひとも日出町も先ほど野上課長御答弁いただいたように、コンセプトをやはりきっちりこういう文化施設は持ってほしいなというのを、今回の質問で申し上げたいんです。町長、ぜひこれを、やはり日出町もあの万里図書館跡が資料館じゃないんです。やはり城址周辺、日出町全体が資料館だと、そういう中の位置づけをきちっとしてほしいなと、こういうふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 文化行政に関わりますが、町政も関わるわけでありますのでお答え申し上げます。既に城址周辺整備であるとか、非常に縄文式時代のいろんな史跡があるとか、あるいは大神回天基地があるとかですね、あるいはまたザビエルの道ウォーキングがある、いろんなものが日出町の財産でありますね。そういうものをしっかりまだまだたくさんあるわけであります。そういうものを受け継いでいく、確かにそういうコンセプト、ちょっと大局的にちょっと表現が足りないようでありますので、私教育委員会と一緒にもう少し町民の皆さん方が日

出町全体を感じられるようなそういう資料館、記念館にできればと思います。言われるとおりと
そういうふうに痛感いたしました、ありがとうございました。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 安心しました。私は私の最近保存がうまくいなくて朽ちてしまっているんですが、農家の民芸品、農機具をあそこに展示するんじゃないかなと、民俗資料館みたいになるんじゃないかなと大変危惧していたんです。やはり文化的なもの、歴史のあるもの、確かにそういう民芸品もそうでしょう。しかし、あの箱の中、あの小さいスペースの中にそういうものを展示するものにはできないんじゃないかなと。それよりもやはりあの館はどういう風な活用するのか、ぜひもう少し深く掘り下げて急がず、野上課長、担当者大変だと思います。少し掘り下げた提案を教育委員会また上長部局のほうに提言してくれるといいなと、こういうふうに思っています。ぜひとも他の施設のあり方、先ほど来出ておりましたまねでもいいです、日出町の特色ができれば、そういう形のまねから入っていただいて日出町の特色を生かしていただくような、そういう資料館、記念館にさせていただくとありがたいなと、とにもかくにもやはり万里先生のお名前、また脇蘭室先生等々日出町も偉人賢人ていうのはたくさんおられます、こういう方々のそういった資料、遺品また日出町の歴史をしっかりと収集できて保存、保管のできるこういうふうにしていただきたいなと思います。教育委員会どうですか、そういう施設できそうですか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長、西野智行君。

○教育長（西野 智行君） 佐藤二郎議員、議会の事あるごとに資料館の創設について提言されてきたということでございます。私ども、今回の新しい図書館をつくる際に旧万里図書館をどういう形で活用するかということも教育委員会として検討をしてきたのも事実でございます。そういった中で名称の問題も起きてまいりました。その流れの中で、これまで二の丸周辺の整備、中心に文化財整備してまいりましたけども、これらについて、実は今のところ点で終わっている状況にあらうというふうに考えております。その意味であそこの万里図書館をうまく利用することが文教としての日出町にとって大きな財産になるのではないかという考えのもとで、あそこの歴史文化ゾーンをどうつくっていくか、これ教育委員会の責務であります。そういった意味で資料館、そしてその中に記念館というような位置づけの中で、実は専門の先生方にも県下でも第一人者といわれる方々にお集まりいただきまして、その辺の全体としての日出町の文化財の活用の仕方、そして今の歴史資料館、万里図書館の活用これについても御議論いただきました。

そういった中で今議員紹介のあったそういう何て言いますかコンセプトと申しますか、テーマと申しますか、そういったものを持った形で日出町の特性を生かしたそういう資料館づくりをしてほしいという御意見もございました。これについてはこれまで議会の中ではあんまり多くは皆さん方に説明しておりませんが、これから施設整備をしていく中でまたそういった方々のま

た御意見もいただきながら、慎重に検討をしてみたいというふうを考えております。そういった流れからすれば、施設についてはあの建物でございますから限界があろうかと思えます。一定程度の展示館あるいは顕彰する施設としての機能が維持できる程度には仕上げていきたい、そしてまた財政当局にも要望してみたいというふうに思っております。その意味で数年次の計画という形を前回のときにもお示しをしたところでございます。

問題はその中のコンテンツと申しますか、展示するあるいは集める資料でございます。これについては狭い施設でございますから、議員おっしゃるようなやはりその中の日出町ならではのものを中心にそういったものを展示して町民の皆さんに還元し、そして後世に伝えていくと、そしてまた加えて県内外の皆さん方にもごらんいただいて観光客の誘致、そういったことも含めて波及的な効果を求めてみたいというふうにと考えているところでございます。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） ぜひ、教育長、担当課と御協議、そして教育委員会の中で十分それを酌み取っていただいて、そしてそういう目指すものにしてほしいと思います。参考に申しわけございません、臼杵の資料館が歴史資料館が大変所蔵品が多いんです、3万5,000点というような資料、以上と、それ以上分かんないということみたいなんですが、そうすると、そういう中でやはりこの資料どういうふうを活用するかと、コンセプト今申し上げたようにやはり未来の臼杵のあるべき姿をこの中から見出してもらえばいいと。こういうコンセプトの中で、また来なくなる活力のある資料館にしたいとか、世代を超えて学ぶ資料館であるとか、臼杵っ子を育てる資料館だとか、観光客の立ち寄れる資料館とか、やっぱりこう観光も入っているんです。ですから、こういうようなコンセプトに基づいたような形の資料館づくりというのは非常に必要だなと、やはり県下でも特に臼杵の場合、所蔵品が多いということ、これびっくりいたしました私も、特に古い絵だとか、こういうものっていうのはあんまりないらしいんですけども、非常に所蔵しているとそういう点で、今教育長おっしゃったように所蔵する場所、スペースこれの中絶対設けてほしいんですが、課長、計画ありますか。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（野上 悟君） 今、議員の御質問でございますけど、臼杵の場合は絵図が大変日本でも数多く残っているということで、私も実は見させていただきました。

日出町の場合、先ほども町長が言いましたが、平成17年に総合計画第4次を立てまして、基本計画の中に私たち文化財係としても、歴史の保存という形で資料館の整備をしてほしいというような計画を立てさせていただいて、日出町には資料館がありません関係で、資料が県のほうへ行ったり、まだ旧図書館並びに公民館等で資料を保存して一括で保存できていないというのが今

までの現状でございます。今回は28年度目標に、一番大事なものは収蔵庫を整備したいと、その中で収蔵庫といいますが、本当に貴重なものを保管するためにはきちんとした収蔵庫で湿度とか温度とかそういうものをきちんとした管理するということではありますが、これは予算的に上を見ればきりがありません。ですけど4月に行われました致道館の検討委員会の際に、先ほど教育長が言われましたけど、別府大学とかいろんな先生方の御意見で、いろんな資料館を見て来た方々ですけど、身の丈に合った本当に日出町にふさわしいそういう資料館でいいんじゃないかと、お金の問題ではないということで、特色ある資料館をつくってほしいというような提言もいただいております。

今回、28年度になろうかと思っておりますけど、この収蔵庫を整備して今いろんな方が個人的に持たれている所有者の方々が経済的事情とか高齢化等で必ずしも十分な管理保存ができていないのが現状ではないかと考えております。そうした中で他施設への散逸や滅失そういうものを日出町に所蔵庫ができますと日出町のほうに寄託されるということもあり得ますし、そういうことになりますと、今後日出町の教育、学術、文化の発展にますます寄与できるのではないかと考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 課長、ぜひ、教育長、ぜひ収蔵庫お願いします。町長何か安でできるそうですね、もうちょっと安でできるかってこんくらいでいいやねいかと絞らんでください。これは財産です、日出町の。やはり件にお願いしたり宇佐の風土記に行ったり、こんなことないように、早くやはり日出町の財産です、先ほどのお話じゃございません。ぜひ、町長、その意気込みだけ伺います。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 大変遅れて出発しておりますが、必要な対策はしっかりやっていきたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） それじゃあ、教育長、安心してください。町長予算つけるそうですから。野上課長、担当者しっかり声をかけてあげてください。

それじゃあ最後に済ませません、これ、いつごろまで目途開館予定ですか。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（野上 悟君） 開館はいつごろかという御質問ですけど、今現在、開館に向けまして他市の資料館等で視察に行きまして、情報収集やいろんな御意見を聞いております。そうした中で寄託品や寄贈資料、日出町に今所管している資料の整理も現在行っております。また、

さまざまな角度から御意見をいただくために、検討委員会を早急に立ち上げまして、その中には町の方も町民の方も入っていただく予定にしておりますが、そういう形で先ほど議員が言われましたように日出町として特色ある資料館、記念館として、そのような目標に向けてさまざまな方から御意見をいただきたいと考えております。

開館につきましては、今後施設の整備、備品等の調達等もございますので、今定例会で補正予算を計上さしていただいております。そうした中で、予算が認めていただけましてから本年度は簡易な整備を行いながら私どもの計画では12月には開館できるのではないかと考えております。以上です。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 大変重たい発言をいただいたんですが、12月開館なんてそんなできるんですか、簡単に。今回、補正予算書上がっていますけど、こんなもんでできますか。私、何のためにこれ、何分も皆さん聞いてもらって、これもっときちっとやりましょう。コンセプトからどういうものにするっていう、もっと内輪の協議、そして意見を聞く。12月開館なんか私とんでもないと思います。もっと町長も予算考えると、きちっとしたもの、コンセプトがあればいいんじゃないかと、こういうようなお考えのようですので、やはりお金かけて、他市のことと言って申しわけございませんが、本当に立派です。本当に広範囲のエリアを図書館にしています。そこまで今私も問いません。また町民もそこまでは問わないと思います。あるものをあるように使う、こういう形で結構だと思います。ぜひともそういう点でもっと慎重に100万、200万の改装費で資料館作りましたと、こんなことの資料館はやめてください、記念館。やはり3年、5年計画、きちっと計画を立てれば私結構です。これ、お願いしときたいんですが、町長どうですか。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） 私が申し上げるのは僭越かと思いますが。教育委員会のほうになりますが。私はまずあるものを展示しながら、逐次、今例えば温度管理、湿度管理いろんな人、これは時間がかかってまいります。ですから、そういうきちっとやってつくり上げるという方法もありますが、まず展示しながら充実していくという方法がある。今、展示しながらどういうものがあり、整備して、収集して当面できる、ある展示資料であるとかいろんなものを必要最小限に揃えて開館してから逐次やっていくと。開館全体的には相当お金、今体育館で耐震強化をやっておりますが、いろんなことをやっていけば時間がかかってまいる、これは図書館問題ではなく、町の施設としてやってまいります。したがって今のところ、12月または1月早い時期に開館をしてお約束して、当初の案は8月9月ごろにはというふうに議会の中で言ったはずであります、ですから若干の遅れはあるかもしれませんが、早い時期に開館という方向で話をしておりますので御理解

いただきたいと思います。

○議長（熊谷 健作君） 14番。

○議員（14番 佐藤 二郎君） 本当、最後にします。大反対です。町長の施策、本当私見て時々びっくりするんです。賛成したいんだけどいいのかなと思う、これなぜかという、大分の回天基地見てください、回天の模型がぼこんとあったんです、野っ原に。今回、資料館だけぼこんとつくるちゅうです。やはり将来のここはどういうゾーンにする、どういう計画ですよという絵ができて中に宝物が入ると、こういう形がやっぱり行政のあり方じゃないかと思います。非常に町長政治家だと思います。肝取りだけを先にする町長、あんまり私よくないと思う。先見えない。全体の構想があつてその中の宝物をそこに置いて光るんじゃないですか。光るものを先に見して、おい、作ったぞというやり方がいいかがですか、町長。資料館、これしないでください。図書館の建設もそうです。1年でつくり上げたんですよ、今見てください、電気料どれくらいかかっているだろうかと心配しています、いらん心配です。ただ、人の金と思わないでください、税金です。そういう点でぜひとも町長の思い、開館してほしいという思いはよくわかります、約束したからと、しかし全体像をしっかりと出してください。その上で開館するならば私も飲みたいと思います。終わります。

.....

○議長（熊谷 健作君） 9番、工藤健次君。

○議員（9番 工藤 健次君） 9番、工藤健次です。通告に従って一般質問を行います。

はじめに、商店街の活性化についてお聞きをします。高校跡地にはケーズデンキ、ホテルAZのオープンの後、トキハインダストリー等の商業施設が本年6月にオープンし、来年の3月には暘谷駅関係の工事の一部を除いて完了予定で現在工事が進められています。暘谷駅北側がにぎわう一方で南側のさざんか通り商店街は空洞化が進んできています。日出城周辺の整備も二の丸館、隅櫓、致道館と修復工事が進み、今後万里図書館の改修工事で資料館や記念館になる予定になっています。この暘谷駅と日出城址の間にある商店街については、現在空き店舗対策等で活性化を行っており、1店舗が本年4月にオープンしたところで、本年度も空き店舗入居者の募集を行っていますが、現状の商店街の営業している店舗数と空き店舗の現状をどのように把握しているか、答弁をいただきたい。

次からの質問は、質問席で行います。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長、河野晋一君。

○商工観光課長（河野 晋一君） 工藤健次議員の御質問にお答えいたします。店舗数と空き店舗数についてであります。店舗数といいますか、事業所数につきましては、堀の交差点から西八日市までの間で70から80くらいあるというふうに思っております。その中でいわゆる商店と

いわれる小売業の店舗につきましては、かなり少ない状況ではないかというふうに思います。また、空き店舗につきましては、役場周辺にもかなりあると思いますが、15から16ぐらいあるというふうに認識しております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 数がはっきり出なかったんで、把握は正確にはしていないというふうに解していいですか。ピーク時に比べて、じゃあどのくらいの割ぐらいに減っているかちゅう、そこら辺はわかりますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） その辺もちょっと正確にはつかんでないんですが、小売業の店舗数につきましては、数的には20から25ぐらいだというふうに思っております。あと、サービス業という部分で飲食業とか理容業とか、そういうサービス業の部分もかなりあると思います。事業所数の中には金融機関とか役場とかそういうのも含めた中で70から80というような形の数字になってきます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、商店街の組織というか、今その現状はどのようになっていますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） さざんか通り商店街の組織であります、約5年前から休止状態になっております。それ以前につきましては、工藤輪業から堀の陸橋の間の商店等の有志が活動しておりました。夏の夜市や大晦日の除夜の市、城下かれいまつりでの大綱引き大会などイベント等も行っておりましたが、商業集積が区画整理事業の中に移る中で、廃業や高齢化が進む中で休止状態になっているようであります。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 今、空き店舗対策で、入る入居者を探している状況の中で、多分組織もない商店街に呼び込むというのは、ちょっとおかしいような気もするんですけども、この点についてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 確かに、商店街として積極的な取り組みの中で、町が支援していくという形が本来かなというふうに思いますが、5年前から商店街の活動は休止ということで、町としてもトキハイダストリーが向こうの道という中でどどんさびれていく中で、商店街の活性化に直接つながらないかもしれませんが、空き店舗を少しでも減らしていこうというようなことで昨年度から空き店舗の助成事業を実施したところであります。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） せっかく商売をしたいという人を呼び込むわけですので、商売をやはりやりやすくし、長続きさせるなどの環境の整備をしていくことも行政の仕事ではないかと思うんですけど、この点についてはどのようにお考えですか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） なかなか今の状況の中でさざんか通り商店街の中で店舗を出して商売の成り立つような事業というのはなかなか難しい状況はあるかなと思います。その中で昨年1店舗、ことし6月から8月まで空き店舗について募集をしまして、残念ながら話は複数あったんですが、今回については募集が見送られたということで、再公募を近いうちにまたやる予定であります。再公募の中でまた多少応募あるのを期待しているところでありますが、そういう中で1つには先ほど議員言われましたように日出城址周辺を整備したという中で、観光客がふえていく中で、そういう中で商売の機会がふえてくれればいいかなというような期待をしておりますし、新たな店舗が来ることによって、特に特徴のある町外からもお客さんが来るような店舗が来ていただければ、それをきっかけに今とは違ったような形の商店街の運営ができてくるのではないかなという期待もいたしております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） なかなか難しい問題なんですけど、やはり現状をしっかりと把握をして、せっかく商売をしに入ってくる人に、やはり組織、商店街も結構若い人が多分経営のあとを継ぐような会社も見受けられますので、ぜひそういう人たちも一緒に話す機会を作って、ぜひ活性化に、空き店舗だけではなくてやっていただきたいと思うんですけど、空き店舗以外の策は何か考えていますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 空き店舗以外のそういう対策ということで、直接商店街だけに特化したあれではありませんけども、一昨年グルメガイドという本をつくりまして、そういう飲食関係のお店に利用をふやすような取り組みと、あとバルイベントを各3回ほど、これもさざんか通り商店街だけではありませんけども、そういう取り組みを行ってきているところであります。あとそれ以外に新たな取り組みというのは今のところまだ計画はいたしておりません。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 一例なんですけども、例えば役場を中心に花でいっぱいにするとか、それから通りの中にはシルバー人材センターとか深見記念館とかそういう場所もあるんで、そういうところを活動の拠点にするとか、そういうこともいろいろ考えて、ぜひ活性化に取り組んでいただきたいと思います。

それから、8月に採用した地域おこし協力隊、こういう活用も考えてはいかがと思うんですけど、その点についてはいかがですか。

○議長（熊谷 健作君） 政策推進課長、井川功一君。

○政策推進課長（井川 功一君） 地域おこし協力隊の活用はという御質問でございます。先ほど来でございますが、先進地がございます。先進地の活用の中に地域おこしの内容がございます。その中には地域の行事やイベントの応援、それから地域ブランドや地場産業の開発とか販売、プロモーション、空き店舗活用などの商店街の活性化などの先進地の事例がございます。そういう事例がございますので、協力隊の活動の状況を見ながら、協力できるところは協力していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、政策推進と商工観光課と連携をして、ぜひ2人も地域おこし協力隊が入ってきていますので、そこは十分活用して何か商店街活性化のために役立てていただきたいと思えます。

それから、商工会との連携というのは、今活性化についてどのようになっているか、そこをお答えいただきたい。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） 商工会につきましては、商工業の振興を図ることが目的の組織であります。商工会が商店街に活性化のために具体的な取り組みがあるということであれば、町としても支援をしていきたいところではありますが、現在商店街組織も休止している中で、商工会としましても効果的な事業がないというのが現状のようであります。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 今の現状ではなかなか商工会との連携も、商店街の活性化には役に立たないというふうに受け取ったんですけども、先ほど言ったように商店とか企業の中に若い人が帰ってきて跡を継ぐ状況にもなってきていますので、ぜひそういう人材の育成とか、そういうことについて補助金制度とか、そういう制度をぜひ作っていただきたいんですけども、そういうお考えはいかがですか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） ただいまの御提案につきましては、特に今まではそういうことについて人材の育成というふうな形で取り組みをしようというような計画はなかったんですけども、きょう御意見いただきましたので、その辺参考にしながら今後検討していきたいというふうに思っています。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 人材育成で今この大分県の商店街振興組合連合会というところが、この「豊の国商人塾」でいって、今29期生ですか、今から約30年前につくったこの塾なんですけど、知事のほうで名誉塾頭になってこういう21世紀の新豊州商人を育てると、こういう研修ですか、こういう制度もありますので、ぜひさっき言ったように、こういう研修を受けられる方については、商工会とかとうまく連携をして、そういう制度をいくらかの補助でも、勉強しに行くという人については出すような制度をつくっていただきたいと思います。

そしたら、先ほどの話で出たんですけど、マップをつくるのかそういう支援策についてはどのようなお考えを持っていますか。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） これも先ほど申し上げましたが、本来商工会なり商店街が主体的に取り組む中で、商店街のマップをつくってお客さんを呼び込もうというような形ではなかろうかと思いますが、そういう状況が生まれれば、町としましても支援をしていきたいというふうに思います。また、先ほど商工会のほうで今のところ策がないというところでありましたが、町のほうである程度そういう具体的な対策等に対して、商工会にも呼びかけまして商工会としてもその辺の活動をしていただくような呼びかけをしてきたいと思っております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） いろんな活性化対策があると思います。先ほど言った人材の育成とか、それから講師を招請して勉強会をすとか、それから専門家の人に診断をしてもらってアドバイスを受けるとか、そういういろんな策があるんですけど、そのためにはやはり小さくても組織がないとなかなか活性化には難しいと思いますので、ぜひ商工観光課のほうで力を入れて商店街の活性化のためには環境の整備が必要かと思われますので、しっかり取り組んでいただきたいと思います。最後にもう一回答弁をお願いします。

○議長（熊谷 健作君） 商工観光課長。

○商工観光課長（河野 晋一君） いろいろと御意見いただきましたので、商店街の活性化に向けて、なかなか難しい問題ではありますけども、商工観光課として積極的に取り組んでいきたいというふうに思います。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、次の質問に移ります。次は、総合型地域スポーツクラブひまわりのたねについてお聞きをします。ひまわりのたねは設立の準備に2年、それから設立後5年が経過しようとしています。本年の11月の法人化に向けて取り組みをしていると思いますが、現状の年間の運営費とか会員数についてはどのようなになっているか、御答弁をいただき

たい。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長、野上悟君。

○生涯学習課長（野上 悟君） 工藤健次議員の御質問でございますが、年間の運営費につきましては23年度が430万、24年度が620万、25年度が660万、26年度が710万、本年ですが760万、端数はちょっと除いております。会員数につきましてはの報告ですが、23年度が133名、24年度が246名、25年度が353名、26年度が365名、本年27年度は現時点でございますけど、332名となっております。今月、本年度はまた後期の募集を行うように計画をしております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 運営費は年々ふえています。それから会員はほとんど300台で推移をしているわけですけども、11月に法人化、これはもうずっと言ってきたことなんで、法人化になりますか、そこ、お答えいただきたい。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（野上 悟君） 基本的には12月ということではなかったかと、目標にということではなかったかと思っておりますけど、まだまだこのひまわりのたねは課題等もございます。実際に法人化並びに行政施策の一環として任意団体のまま取り組むといたしましても、地域の住民から必要不可欠であるというふうな、そのような施設になるために、クラブになるために多くの会員が参加いただき活動が行われるかというような形でもう一度原点、目標を確認しながら法人化のメリット、法人化でなかったときとかいろんな角度から一度有識者、当然かかわるものそれと町民並びに学識のあるもの等を含めまして、もう一度検討させていただいて目指す方向を再確認をしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 法人化に向けて、取り組みもう5年ずっと多分目標にこうしてきていると思うんですけども、今会長も3代目ですか、事務局長も2人目、当初かかわってきた人たちが結構変わってきて状況が変わってきていますので、本当に法人化したときに実質的な運営ができるかということがすごく設立当初からかかわってきた人たちは心配をしています。今運営費が760万で、ことしの運営費って言ってるんですけども、その中でスポーツくじとか自治体の負担金、補助金が入っていると思うんですけど、この金額はどのような割になっていきますか。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（野上 悟君） 今の御質問でございますけど、本年度で申しますと760万の運

営費、これは事業費並びに人件費を含んでおります。スポーツ振興センターよりの補助金でございますけど、本年は410万の補助をいただいております。それと会員、これも本年の予算でございますけど、200万を予定しております。それに不足分であります町よりの負担金という形で220万ほどいただいて、27年度運営をしております。ちなみに27年度以降でこのスポーツ振興センターよりの助成金が切られるわけでございますので、早急に検討していきたいと考えております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 今の状況からすると多分法人化しても自主運営は相当厳しい状況になるかと思われましても、この法人化を目指しているんで補助金なしでの運営費については、どのくらいということを見込んでますか。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（野上 悟君） 当然、28年度から補助金がなくなります、そうした中で単純に今までの27年の事業で試算しますと、補助金が410万なくなりますんでその分を含めた500万から600万が今のところ単費という形で同程度の事業を行う場合の単費という形で500万から600万になろうかと推測しております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） ことしから事務局を川崎体育館のほうに移してそこの多分業務をやっていると思うんですけど、その川崎体育館での収入というんですか、その部分の金額についてはどのようになっていますか。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（野上 悟君） 実際にはまだ法人化しておりませんから、ひまわりのたねが収益を上げるという部分ではございませんが、清掃だとかそういうものを今まで民間に委託していたものをひまわりに委託したとか、そういうものの収入を得て、実際にちょっと今数字覚えませんが、活動費に充てるという形で試行期間という形で行いました。もともとひまわりのたねにつきましてはやはり活動する、拠点する館が必要だということで、27年当初から川崎を拠点という部分でも取り組みまして、向こうのほうに今拠点を移したところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それと、法人化の組織体制ということなんですけども、クラブマネジャーとかそういう人たちの資格の関係については、法人化しても今の状況では問題ないですか。

○議長（熊谷 健作君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（野上 悟君） 法人化に向けて、法人化になった場合の組織の体制でございま

すけど、規約では法人登記が最低10名ということで、正会員10名以上の法人登記が必要というふうなきまりになっております。現在の役員につきましては、12名の役員体制でひまわりのたねを運営、経営しておりますので、役員体制につきましては問題はございません。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 法人化、これを絶対にやっていただきたいんですけども、そのためにはやはり運営費とかそこら辺の問題がまだまだたくさん課題があると思うんですけど、最後に教育長、このひまわりのたねの法人化については教育長としてどのようにお考えですか。

○議長（熊谷 健作君） 教育長、西野智行君。

○教育長（西野 智行君） ひまわりのたねにつきましては、工藤議員のほうから25年の第4回の定例会において御質問をいただきました。今回2回目になります。その際、私のほうから会員数の、法人化に当たって大事なことということで御質問いただいた中で、会員数の増加と財政基盤の強化が必要である旨の御答弁をさしていただきました。現時点では残念ながら、どちらとも今担当課長の説明にあったように十分でないという実態でございます。したがって、もう少し別の観点から整理し直す必要があるだろうということで、担当課長のほうももう一度、法人化に向けてするのかどうか、しないにしてもどういう形で役割を担っていただくのか、そういった観点でももう少し幅広い議論、やはりこの時点でやっとかんといかんだらうという思いでございます。

ただそうは言ってもこれについての、生涯スポーツの振興という観点からいえば、これは行政課題でもあります。その意味では着眼点といいますか、そういったのは当然行政として考えなきゃいけないだろうというふうに思っております。それで、1点目でありますけども、日常生活の中でスポーツを楽しむということの町民の皆さんへの普及がまだまだ十分でないなど。今現時点では、ひまわりのたねのほう自主教室という形で活動を頑張らせていただいておりますけども、この三百数名の会員だけでは会費収入も含めて非常に十分でない。そういったところからすれば、もう少し幅広い形で町民の皆さんに生涯スポーツの必要さ、そういったものを普及していく、こういう活動が1つ必要だろうなと思っております。

これらについてもそうですが、2つ目はそういったのを行政だけでやっていくのかという問題であります。これでは限界があるということで、このひまわりのたねの話が出てきてるんだと思うんで、そういった関係からすれば、ひまわりのたねを中心にしながら、そういった生涯スポーツの関係団体の要請といいますか、そういった振興策をやはりあわせてやっていかないと、ひまわりのたねの十数名の会員だけで所詮2万8,000人の町民の皆さんのそういった形のものができないだろうとそういうふうに思っております。そういった意味で、そういった関係団体の振興あるいは連絡協議会とか、そういった形での部分が少し私は不足しているような気がいたしております。これは、ひまわりのたねの問題でなくて、これは町のスポーツ振興の問題でもありま

す。そういった中からすると、行政がどこまでこの部分に関わっていくのか、そして民間団体とどれだけ協働してやっていくのか、こういった問題だろうというふうに思っております。

望ましいのは、ひまわりのたねが自主独立でやっていくのが一番望ましいわけですが、現状を見るとこれ厳しい。他の市町村見ても、なかなか法人化しても自主独立採算でやっているところはあまりないと聞いています、ゼロではありませんが。近隣市町村見てもやはりそれなりの一定の行政からの補助というものは出ております。これはもちろんスポーツ振興は行政の課題でもありますからそういった意味ではそれについての一定の公的な補助というのはあってしかるべきだろうと思っております。この金額について、どの程度がふさわしいのかも含めて、また財政統計もごさいますので、十分幅広の議論、もう少し早急にした上で、今後の方向についても対応を考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 多分、法人化するにはもう5年も多分準備期間があったので、もう土壇場になってこういうことになっていますので、これ設立のときの目的は、クラブは誰もが気軽に楽しめる取り組めるスポーツ、文化活動を通して町民の人生を一步前進充実させ健康で活力ある人づくり、まちづくり、未来づくりに寄与することを目的として設立したわけでありますので、しっかりここを原点に戻って、どうしていったら町民の皆さんの御協力を得て、クラブ運営がいくかということをしっかり検討していただいて、お示しをしていただきたいと思います。ここを強く言って、次の質問に移ります。

次は、特定健診についてお聞きをします。ちょうど9月4日の新聞に平成14年度の医療費が国のお金は40兆円、12年連続で過去最高を更新したということで、大分県の1人当たりの医療費が61万円、一番高いのが高知県の64万円、最低は千葉県の41万5,000円、全国平均が50万1,000円という記事があって、高知、山口、それから大分、鹿児島、佐賀が同じと、ちょうど新聞記事が載っていたんですけど、政府の骨太方針では、医療費抑制のため1人当たりの医療費の地域差の半減を目指すというふうに明記をされています。健康づくりと病気の予防への取り組みの強化が求められていますので、こういう質問をすることにしたんですけども、今の対象者や受給率の現状がどのようになっているかということをお聞きをいたします。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長、高倉伸介君。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 工藤議員の御質問にお答えいたします。特定健診の対象者と受診率ということでよろしいですね。特定健診の対象者につきましては、40歳以上の方が特定健診の対象者となりますが、その中で長期入院とか施設入所の方は除かれますので、23年度が対象者が4,663人で、受診者が1,941、受診率は41.6%、24年が4,677人の対象者

で、受診者が1,946、受診率41.6%、25年度が対象者4,702人、受診者2,002人、受診率42.6%、26年度につきましては、まだ速報値ということで、まだ対象者が絞り込まれておりませんが、速報値で言えば4,837の対象者として受診者が2,003、受診率が41.4%ということになっております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 対象者とかその数はあまり推移はしていないし、受診率も41.2%で推移をしている状況になっていますが、県下の状況と日出町はどのくらいの位置にあるかということをお聞きします。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 県下の状況を申しますと、県全体の平均で申しますと、23年度は38.8%、24年度が40.1%、25年度が39.4%ということで、これは県は全国順位で言いますと23年度が9位、24年度が10位、25年度が15位ということでございます。その中で日出町の順位につきましては、大分県の平均よりは上回っておりますが、自治体順位といたしましては、23年度が10位、24年度が13位、25年度が自治体順位の中で10位ということで、10位前後を行ったり来たりしております。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それでは、その受診率をふやすためにとっている具体的な策がありますか。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 受診者をふやすための取り組みといたしましては、検診の申し込みをしているが、未受診の状態にある方のタイムリーな受信勧奨や国保新規加入者への窓口や訪問での検診情報の提供を行っております。また、特定健診の未受診理由に治療中である方も多いため、健康教育や広報で治療中の方も対象であるということを啓発を行っております。検診が習慣化するように30代から健康診査を実施したり、前年度受診者が確実に継続受診するように啓発をしております。さらに40代、50代の受診率が低いことから、地区検診では日曜日の検診を追加実施して受診率の向上に努めているところでございます。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 40%台で推移をしているということは、まだまだ課題があっても広報の不足とかそういう部分がたくさんあるんじゃないかと思っておりますので、それでは多分関係機関、農協とか漁協とか商工会とかそういうところと連携してもっともっとこの受診率を上げるというそういうことは考えないですか。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 今、議員さんのおっしゃるとおり、受診率が低いのが40代50代というような若い人が中心になって、受診率が低い状況になっております。特定健診等につきましても、一人一人自分の健康な自分で守るといような健康意識を持つこともやっぱり重要じゃないかなというふうに考えております。また、そうした意識の醸成で、今まで各区でみんなと健康お話隊が行くという健康教室や健康指導を実施してきましたけれど、先ほど申しましたように、受診率の低い40代、50代の参加者が少ないようになっております。

農協とか漁協等についての連携はまだ現在やっておりませんが、農協、漁協等の連携をすることによって受診率を上げていくということはいいことであるので、そういうのを考えていきたいなと思っております。それから本年度から保健所とかと組みまして健康教育のアンケートを町内の事業所で行っております。5名以上の雇用者があるような事業所に対しましてアンケートを行って、希望する企業につきましては企業に出向いて行ったり来てもらったりして健康教育をして少しずつ健康意識の高揚に努めていきたいなというふうに考えております。

以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） なかなか受診率が上がっていないんですけども、課としては何か目標を持って、例えば大分県の一番高いところは多分62%ぐらいあると思うんですけど、それに税の収納率とかと一緒に目標を持って取り組んでいますか。

○議長（熊谷 健作君） 健康増進課長。

○健康増進課長（高倉 伸介君） 目標につきましては持ってやっております。一応県に公表として目標率としてあげているのが26年度50%ということで目標を掲げておりますが、実質50%まで行ったことは日出町はございませんので、もっと身近な目標率を持って実施しようと思っております。現在、目標管理ということで言われておまして、その中での目標としては特定健診、とりあえず42%まだいっていませんので、42%オーバーというのを今年度目標として掲げております。以上です。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） 一番この健康づくり、受診率を上げて病気の人を早く見つけて治療費を抑える。昨年は治療費が日出の場合は前年に比べて上がっていないという回答でしたんですけども、ぜひ目標は高く掲げて、ぜひそこに近づくようにしっかり取り組んでいただきたいと思えます。

町長、きょうは3件いろいろ御質問したんですけど、3件とも心配な部分がたくさんあったんですけど、日本一とまではいかななくても、それぞれの係が大分県一を目指すとかそういう目標の

もとに真剣に取り組む姿勢が大事ではないかと思えますけども、町長の最後にお考えをお聞かせください。

○議長（熊谷 健作君） 町長。

○町長（工藤 義見君） ただいまの工藤議員の御質問の中で、私も今回は徹底的に今目標管理、課題をしっかり各課ごとに出すように、もう既に一覧出ておりますが、ただ大まか過ぎるということを、再度提出するように言っておりますが、やはり出したら皆さんが全員どのくらいのパーセントいっているとか確認しながら、そしてまた翌年は具体的に今年度はどういう対策を講じていくとか、やっぱりそういうことを繰り返していかなければやはり効果がないと思います。ただ目標を定めて年度末で比べてみたらちょっと低かった高かった、こういうことではならないわけで、全体的にこれは検診問題だけではございませんで、全ての事業部門で目標が何なのか、課題は何なのか、どういう方法において解決するのか、そういうことを全部課に提起をしまして、一応出ておりますが再度見直すように指示しておりますので、そういうことを含めて目標管理を徹底させていきたい、そういうことを通して成果を上げていくと、こういうことが大切だと思います。やはりいくらやっても成果が上がってこなければやはり私は今仕事していないところ言うておるんでありますが、やはり仕事をしているのはしているのですが、成果の上がる仕事をやっていくと、これが大切だと思います。意見を十分考慮しながら、今後対処してまいりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（熊谷 健作君） 9番。

○議員（9番 工藤 健次君） それではしっかり目標管理をしっかりやって、中間で検証して差があるところは後半戦で目標に近づくようにしっかり町長各課に努力をさせていただきたいと思えます。

以上で私の質問を終わります。

○議長（熊谷 健作君） これで一般質問を終わります。

散会の宣告

○議長（熊谷 健作君） 以上で本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会したいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（熊谷 健作君） 異議なしと認めます。したがって、本日はこれにて散会することに決定しました。

本日はこれで散会します。御苦労さまでした。

午後0時16分散会
